

議員研修 報告書

平成28年1月28日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 澁谷 政義

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年1月18日(月)～1月19日(火)
調査・研修先	市町村職員中央研修所
調査事項 (研修事項)	①2016年サミットと参議選の展望 ②今後の日本経済の展望 ③地方創生と地方会議の役割 ④地方議会をどう変えるべきか・政治の役割
対応者・講師等	①伊藤 俊行 ②島田 晴雄 ③人羅 格 ④佐々木 信夫
概 要 ① 内容	<p>① 1月18日(月) 13:30～15:00 「これからの政治の行方～2016年サミットと参院選の展望～」 講師 読売新聞メディア局編修委員 伊藤 俊行氏</p> <p>1、2016年の政治展望</p> <ul style="list-style-type: none">・参院選と相性の悪い政権与党。過去20年で勝利が2度について・日本でのサミットは政権に不吉?3連続退陣/「成功」は当然、「失敗」のリスク大、・目白押しの外交日程、夏までは「攻め」より「守り」、サミット、TICAD6、国連安保理非常任理事国、日中韓など・同日選は自民党に有利?安倍首相は同日選論者/投票率上昇の損得、現投票率がアップするなら不満の表れ・安倍首相は憲法改正にこだわりはないのでは!改正よりも日露平和条約締結への意欲が強いのでは! <p>2、安倍政権の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none">・アート(政治技術)とサイエンス(正しい政策)のバランス(国会全体のアート(根回し)が低下している。内容がゆがんだ安保法制と軽減税率/穴の開いたテロ対策(共謀罪を作れない)・弱い野党が阻む政策のブラッシュアップ。展望見えない野党再編・「4分の1民主主義」がもたらす「選挙不信」、相対得票率と絶対得



票率/「選挙よりデモ」の若者。

- ・先送りされる選挙制度改革（小選挙区割りを変えるべき）

3、急務の統治機構改革

- ・高すぎる国政選挙の頻度（1，7年に1回の国政選挙）
 - ・多党化を抑えられない小選挙区制（イタリア失敗）
 - ・順序間違えた政治改革（地方分権後回しのツケ）
 - ・「身を切る改革」への疑問（国会議員は多すぎるのか？）
 - ・政党を劣化させた助成制度（ドイツ、英国に学ぶ公的助成の在り方）
- 「締め」

安倍政権は、色々な政策を展開したが、選挙制度改革や統治改革を期待したい。

② 15：15～16：45

「今後の日本経済の展望」

講師 千葉商科大学学長

島田 晴雄氏

- 1、アベノミクス4年間の評価
- 2、第一次成長戦略「日本再興戦略」
- 3、第二次成長戦略
 - ・TPP参加と交渉プロセス（14兆円の効果）
 - ・農業改革
 - ・女性の活躍支援
 - ・人口減少と地方創生
 - ・賃金引上げ、法人税引き下げ
- 4、第三次成長戦略の要点
 - ・日本産業再興プラン：産業の新陳代謝、女性・外国人の活用、大学革新、科学技術、立地競争力
 - ・戦略市場創造プラン：健康寿命延伸、クリーンで効率的エネルギー、次世代エネルギー、世界で稼げる地域農業
- 5、新たな時代の可能性の実現
 - 異次元成長戦略の提案
 - ・エネルギー（第4次産業革命、送電線）
 - ・ITとイノベーション（産業革命、start up）
 - ・農業改革（コンパクトシティと農地改革、社会農業）

③ 1月19日(火) 9:00~10:30

「地方創生と地方議会の役割」

講師 毎日新聞論説委員

人羅 格氏

1、政策提言機能の強化(議会の権限を考え直す)

- 二元代表制 双方が競争しあうシステム
- 地方自治法 首長が予算提出権限を独占、条例提案権限も持つ(その見返り?としての不信任案議決権)

○首長優位

- ・予算提出権限の独占(地自法112条1項、149条)
- ・政策条例の提案権(予算調整権の侵害)議会側警戒、萎縮
- ・再議、専決処分などの優位

◎議会からの問いかけ

- ・議員提案「政策条例」で多くのことが可能では、地自法222条1項、これは議員提案条例についてもあてはまると解されるつまり、執行機関との調整で財源の見通しを得る条件さえクリアすれば、予算を伴うものであっても議員提案の政策条例は、ただちに執行権の侵害とはならない。

2、政務活動費問題(地方議員への不信の代名詞)

○批判の根源 ひとことで言えば一般感覚との「ずれ」

- ・必要性 第2の報酬ととられがち(東京都議60万円/月)
- ・使いみち 海外出張はどうあっても批判をあびる
飲食、調査委託費に不明朗さ
- ・「前払い方式」の見直し 使い切り体質の是正
- ・第三者的検証 使い道のルール化や検証

④ 10:45~12:15

「地方議会をどう変えるべきか~政治の役割~」

講師 中央大学経済学部教授

佐々木 信夫氏

1、2000年改革後の二元代表制(議会の立ち位置変化)

- ・地方議会の立ち位置~チェック機関(脇役)から政策・立法機関(主役)へ
- ・二元代表制の本質~機関対立主義(双方は対等の政治機関。役割が異なる機関)
- ・地方議会の本質~①団体自治の観点から自治体全体の意思決定

<p>② (感想)</p>	<p style="text-align: right;">②住民自治の観点から、首長執行機関の ii 監視統制、 iii 政策提案、iv 民意集約機関</p> <p>3、政策過程—政治の役割、行政の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題—政治の役割 ② 立案（政策）—行政 ③ 決定（政策）—議会 ④ 実施（政策）—行政 ⑤ 評価（政策）—議会（決算） <p>4、地方議会の改革ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 立法・政策能力の向上（議員自身も） ② 議会の自立性の確立（権限の拡大） ③ 議会スタッフ（法制担当）の充実 ④ ガバナンス（内部統治）の強化 ⑤ 住民と協働する議会づくり <p><経済は、人の動きで変わる></p> <p>二日間の研修を受講して、地方議会が果たすべき役割や知識に基づいた考え方など意義のある内容であった。</p> <p>この研修で学んだことを、今後の議会活動に生かし議会の権限を高め、自分だけの財産にすることなく、住民はもとより市政の財産になるように努力を重ねたい。</p>
---------------	---